

# 足利風 -ashikaga-fu

2018  
6月号  
Vol. 56



書：風喜人

## 足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- \*特集！
- \*TOPICS
- \*私のボランティアことはじめ
- \*サークル紹介
- \*インフォメーション
- \*センターからのご案内

## \*わたらせの風～“愚”の思想をつむいで～\*

足利友愛義団という、現代に生きるわれわれNPO・ボランティア活動に関わる人間が全国に誇るべき社会貢献団体が、かつてこの地域にあった。明治末期、足尾銅山鉱毒事件の際には、谷中村被災民救済のために身命を賭して立ち上がった田中正造を全面支援したことも知られている。救援物資を積んだ大八車の列が足利駅前から藤岡・谷中村に向かい出発すると沿道を進むにつれ、その列は数を増し膨大な列になった、と語り草になっている。

田中正造の言葉に「衆愚は人に愚にして天に愚ならず」という名言がある。さげすまれ無価値とみなされ、ころがる一個の石のように蹴飛ばされる存在にこそ愛が蔵され、世を動かす真の力が潜んでいる。愚に徹するところから生ずる知は“人知”ではなく“天知”である。



天には口が無い。天がその声を自分の代わりに言わせるにあたっては、衆愚より発する声による。“天理”は知識人から出るのではなく、愚人衆愚の世論から生ずる・・と。

田中正造の「いのちの公共哲学」は、人間存在の低みに身を置くということ。高いところから低いところに向かって流れる“水の思想”とも言われている。わたらせの西・安中は同志社を創った新島 襄の生誕地。新島から信頼され安中教会を任され“戸毎に信を説き、人毎に諭す”という地に足のついた活動をした柏木義円も“愚俗の信”を座右の銘としていた。

非戦の人・孤憤の人と称された柏木義円はその「上毛教界月報」誌上で、最後まで田中正造支援をしつづけた。「愚を守り聖を作(な)せ」との遺墨があるように、聖フランシスの如き無一物の生き方・高尚な精神性に連なる人々の群れの中に、足利の先人たちが確かに存在していたということに震えるような感動を覚える。

(M生)

---

## \* 東日本大震災7周年展 \*

東日本大震災7周年展が3月5日～15日、足利市民活動センター3Fみんなの広場で開催された。2011年3月11日震災当日から被災地支援を始めた「がんばろう東北！」応援プロジェクト足利風の企画で、現在までの被災地支援の様子が一目瞭然。また、宮城山元町や岩手陸前高田をはじめ福島飯舘そして原発が子どもたちに及ぼす小児がん検査・予防への募金箱も置かれた。風化をさせない！という思いが溢れる展示企画となった。

## 「福岡正信さん、〈種子入り粘土団子〉で、砂漠緑化できるの」

丘にのぼれば、はるかに瀬戸内海が見渡せる。そんなゆるやかに隆起した丘にのぼるコンクリートの坂道を歩いてゆくと、片側の傾斜地に、落葉のしきつめた中に、人が通ってできた細い道があった。

少しのぼるにつれて、柔らかな光の中に木々があり、美しい雑木林の中を歩いているのに気がついた。美しい林だった。木々は密生してはいなくて、空気と光の中に、木々が美しく伸びている。さわやかな林だった。すがすがしい木立だった。美しい「自然林」だった。

今から約40年前の1975年、そこは四国の自然農法家・福岡正信さんの自然農園で、何百本もの古いミカンの木があるミカン山だった。そのミカン山に点在していた粗末な作業小屋で寝起きして、私は、水道も、電気もガスもない原始的な生活をしながら、自然農法の研修生の一人として種々の農作業をする日々を送っていた。

農作業の一つは、ミカン山のあちこちに、色々な種子を混ぜてばら播くことだった。そうすることによって、色々な草や木や野菜が生え育ち、粘土質の土を少しずつ植物が生育しやすい土に変えてゆけると、福岡さんは確信していた。

その自然農園を1977年に離れてから、35年後の2013年、私は初めて、再びこの自然農園のミカン山を見る機会を得た。2013年に、〈福岡正信生誕100年を祝う会〉が、愛媛県美術館講堂で行なわれたのだ。

翌日、木が古くなって廃園になったと聞いていたミカン山で見た風景が、この文の冒頭に書いた美しい「自然林」だった。

これが、福岡正信さんが、後年、世界のあちこちを飛び回って、「種子入り粘土団子」を播いて、夢みていた砂漠緑化の「<sup>あかし</sup>実証」だ、と私は思った。感無量だ。



## \* 田中正造の思想を未来へ \*

田中正造大学は1986年2月11日、産声をあげました。栃木県佐野市にある田中正造の生家を活用した市民大学です。最初の講師は宇井純氏です。思えばすでに100名を超える教授が講演して戴きました。田中正造大学は田中正造の思想と行動を学ぶための学習会が目的ではありません。その思想を広め実践していくことです。田中正造の思想が注目される時代は決して良い時代ではないと故小松裕熊本大学教授が話していました。時代が正造を呼んでいます。正造の思想は未来を変えるための多くのエキスあります。その明るい未来のためにこれからも活動していきたいと思えます。

(事務局長・坂原辰男)

## ① インフォメーション ①

### ☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。  
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、  
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。  
どうぞ、お気軽にご参加ください。

#### ★ 6月15日(金) PM2:00～4:00

- \* 本 : 「生きがいについて」(神谷美恵子)
- \* 案内人 : 田中 佑雲 さん
- \* ひとつ : ハンセン病療養施設での献身的な奉仕で人々に感動を与えた神谷美恵子さんの言葉に心が洗われます。～ひとは自己の精神の最も大きなよりどころとなるものを自らの苦悩の中から創り出しうるのである。・・・この内面から生まれたものこそいつまでもその人のものであって何ものにも奪われることはない。

#### ★ 7月14日(土) AM10:00～12:00

- \* 本 : 「腸のふしぎ」(上野川修一)
- \* 案内人 : 斎藤 ゆみ さん
- \* ひとつ : からだの中の外界と言われる腸の驚くべき働きが注目されています。年間1万トンもの食べ物を消化・吸収し、たえず病原菌にもさらされる腸。最強の免疫器官であり、独自の遺伝子を持つ腸内細菌との共進化との場でもある。第二の脳とも呼ばれる驚異の能力・・・など数々の腸のふしぎを知る旅をご一緒に！”

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

### \* センターからのご案内 \*

#### ☆みんなの広場 ～ 4月・5月のご案内 ～

- \* 彩美会 水彩画展 6月 4日(月) ～ 14日(木)
- \* 2018 土と布・炎と織・器と衣展 6月18日(月) ～ 28日(木)
- \* 古時計展 100個の目覚まし時計の仲間たち 7月 2日(月) ～ 12日(木)
- \* シルバー大学校作品展 7月17日(火) ～ 26日

(木)

#### ☆相談室&講座のご案内

- \* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- \* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

#### \* 編集後記 \*

これまで各施設の夏場を彩ってきた緑のカーテン事業が本年度から縮小になり、当センターも廃止に該当してしまいました。見た目も涼しく、すくすくと育つゴーヤを見る事が夏場の楽しみだったために残念でなりません。来年度は復活してほしいなあ。  
(すずうさぎ)